

普及職員（農業） A

〔例題1〕 次の文章は、土壌生物に関する記述である。文章中の空欄 a～d に入るものを正しく組み合わせているのはどれか。

土壌生物は、極めて小さい微生物から大きなサイズの土壌動物まで様々なサイズの生物から構成される。土壌動物や植物根を除いた土壌中の全生物体量を一般に と呼び、アーキア、細菌、真菌などがその大部分を占める。 中の炭素と窒素の比（C/N比）は約7であり、土壌そのもののC/N比の12～13より小さい。すなわち、 中には が濃縮されていることになる。

土壌の種類やその利用状況によって、土壌微生物の種類は影響を受ける。嫌気的な状態にある土壌では、多くが好気性の微生物である は少なく、嫌気性のアーキアや の割合が増える。

	a	b	c	d
1.	微生物バイオマス	窒素	真菌	細菌
2.	微生物バイオマス	窒素	細菌	真菌
3.	微生物バイオマス	炭素	真菌	細菌
4.	土壌生態系	窒素	細菌	真菌
5.	土壌生態系	炭素	真菌	細菌

【正答1】

普及職員（農業） A

〔例題2〕 マメ類に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. ダイズの子実はタンパク質含有率が約35%と高いため、子実の登熟期には窒素の要求性が高まり、葉身に存在する窒素の子実への再転流が起こる。
2. インゲンマメには完熟子実を利用する品種と若莢を利用する品種とがある。完熟子実用の品種は、日本では主に九州で栽培されており、そのほとんどが煮豆用として利用されている。
3. ラッカセイは、マメ類のうちでは過湿に強く乾燥に弱いため、水田転換畑での栽培に適している。
4. アズキは、日本での栽培面積がマメ類の中で最も大きく、主に近畿以西で栽培されている。用途はほとんどが餡^{あん}や甘納豆などの菓子の原料である。
5. ササゲは、南米原産で、南米での生産量が多い。日本では、完熟子実を食品とするほか、マメ科牧草として飼料用に広く栽培されている

【正答1】